

主催：NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター 後援：千葉県自然保護連合、里山シンポジウム実行委員会、WWF ジャパン、日本自然保護協会、生物多様性 JAPAN、千葉県生物学会、自然史学会連合
協力：千葉県立中央博物館、千葉県生物多様性センター

シンポジウム

生物多様性保全シンクタンクと博物館

～行財政改革から10年、博物館「冬の時代」を打開するために～

2012年3月18日(日)

千葉県立中央博物館 1階講堂

午後0時45分 開場

午後1時15分～4時30分

参加費無料(資料代300円)



記念講演 「県民と響きあう博物館とは?～博物館のシンクタンク機能を活用して～」

講師 三重県立博物館 館長 布谷知夫さん(滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員)

県内の各現場からの提言(三番瀬他・中山敏則、谷津田/里山・小西由希子、都市の自然環境・山田純稔、山のフィールドミュージアム・島立理子、鳥獣/野生生物・中野真樹子)

パネル討論 (夷隅郡自然を守る会・手塚幸夫、三重県立博物館・布谷知夫、県教育庁文化財課・永沼律朗、県立中央博物館兼自然保護課・中村俊彦、千葉県自然保護連合・中山敏則)

参加者による質疑と意見交換

【開催の経緯と目的】

今年(2012年)は県が行財政改革を発表し、県立博物館の統廃合などの見直しの方針を示してから10年、そしてこの見直しの方針に対し、NPO や県民が中心になって「千葉県立博物館構想に関する県民提言」を発表してから9年となります。

行財政改革の結果、県立博物館は10館体制が5館8施設となり、予算ベースで約4割減、全体の博物館員数は3分の2となりました。県立中央博物館の自然誌系専門職員(分館海の博物館を含む)も採用は1999年以後なく、職員数を大きく減少しています。これでは次の世代に引き継ぐための人材はいなくなってしまう。

一方、2008年に策定された「生物多様性ちば県戦略」の推進を図るために、県庁自然保護課内に「千葉県生物多様性センター」が組織され、危機的な状況にある「千葉の原風景」(干潟、谷津田・里山、印旛沼・手賀沼、九十九里浜、水源地域等)の保全や外来生物および野生鳥獣害対応などの課題解決が期待されます。

今回のシンポジウムでは、「市民とともに歩み市民と響き合う博物館」の視点でこの10年を振り返ると同時に、県立中央博物館と生物多様性保全のシンクタンクのあり方について、活発に意見交換し、今後の博物館活動への提言に生かすことを目的としています。

お問合せ：事前の申し込みは不要です。当日直接、会場にお越しください。

電話 043-241-1818、FAX 043-239-6420

NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター事務局 千葉市中央区新田町10-1 田中ビル2階

裏面のアンケートにご協力ください あなたの県立博物館活動への評価、期待などをご記入ください

博物館アンケート

該当する項目（番号など）をすべて で囲んでください。

各位 本アンケートにご記入いただいた内容は、シンポジウム及び報告・提言作成の際の貴重なご意見とさせていただきます。ご協力の程、よろしくお願いいいたします。

なお、ご提出は3月12日(月)までをお願いします。

ご提出先は、千葉まちづくりサポートセンター事務局まで

ご提出方法は、FAX 043-239-6420、又はEメール born@jca.apc.org

をお願いします。ご記入のスペースが不足の場合はご自由に別の用紙などご利用ください。

2012年2月

NPO法人千葉まちづくりサポートセンター 事務局

1. あなたのお住まいの市町村名() 性別(女、男)
ご年齢(10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代~)
ご所属(研究者、NPO、自然愛好者、歴史愛好者、学生、公務員(博物館関係者除く)、その他)
2. 2009(平成21)年4月以降(安房博物館の館山市移譲後)訪ねたことのある県立博物館
1. 県立美術館(千葉市) 2. 中央博物館(千葉市) 3. 中央博物館海の分館(勝浦市)
4. 中央博物館大利根分館(香取市) 5. 中央博物館大多喜城分館(大多喜町)
6. 現代産業科学館(市川市) 7. 房総のむら(印旛郡栄町) 8. 関宿城博物館(野田市)
3. 県立博物館をめぐる以下の動きあるいは取り組みについてご存じのものはどれですか?
1. 千葉県立博物館構想に関する県民提言(2003年)
2. NPOから県立博物館評価尺度づくりの提案(県NPO活動募集提案事業)がなされた(2004年)
3. 県立中央博物館における県民と専門家による「千葉の干潟展」事業(2007年)
4. 生物多様性ちば県戦略の策定と県生物多様性センターの設置(2008年)
5. 上総博物館が木更津市に、安房博物館が館山市に移譲された(それぞれ2008年、2009年)
6. 博物館における地域振興のあり方答申(2008年)
7. 県立中央博物館と市民の共同による「生物多様性企画展」事業(2009年)
8. 中央博物館と市民による「フィールドミュージアム推進」事業(2009~2010年)
4. 県立中央博物館(特に自然誌系)についてお伺います。
(1) 県立中央博物館は、2003年に県民提言した「地域の課題解決に取り組む博物館」「市民と響きあう博物館」の方向に取り組んでいると思われますか?
1. 感じる 2. 少し感じる 3. 感じない 4. その他
(理由)自由に記述ください。

(2) 2011年12月に、活性化方策の一つとして中央博物館は、「千葉県の地球・生命・人類の自然誌及び文化誌についてローカルかつグローバルに探求し、社会のシンクタンクとなる」という理念を掲げました。
中央博物館に期待すること、「冬の時代」から脱出する方策など、ご自由にご意見をください。

ご協力ありがとうございました。